

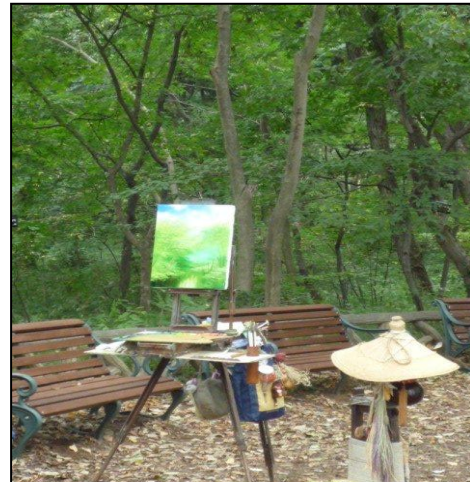
第二十回フオト旬会優秀作品(24年6月18日)

<自由題>



シャッターを
押すまで持たぬ
足と腰 中村晃也

画伯どの
ランチタイムは
とうに過ぎ 矢澤 正二



菜の花や
デートを気遣う
親心 中村 晃也

自由題寸評：

中村さん：撮影に夢中になりこんな姿勢の人をよく見かけます。
構図に苦心しているともう足腰が悲鳴をあげ、カメラが固定できずピントが合わせられません。

矢澤さん：野外写生の途中でキャンバス一切を置いたままだこかへお茶でも飲みに行ったのか？羨ましい境遇ですね。

中村さん：「お母さん、心配ないんだから、付いてこないでよ」娘さんの困惑した顔が想像できます。

< 句 付 け >

5月のお題写真



水無月の陽光（ひかり）と大地生氣満ち
夏来るあの子は幾つと指を折り
見つけた梅雨の晴れ間の隠れん坊

大月 和彦
矢澤 正二
三春

< 寸 評 >

今月のお題写真は矢澤さん出題の紫陽花に囲まれたお地蔵さんです。

大月さん：強い陽光と雨に濡れた大地、いかにも生氣が満ちてくる初夏の様子が上手に描写されています。

矢澤さん：また夏が巡ってきた。お地蔵様を見てあの子は生きていたら何歳になっていたかと指を折って数える気持ちがよく判ります。

三春さん：紫陽花の陰に隠れたお地蔵様、赤い帽子では直ぐに見つかりそうです。

今月の入選句は着眼点がそれぞれ異なりバラエティに富んだ句が並びました。特筆すべきことは、各句にチャンと俳句という季語が入っていることです。季語を上手に使うと短い言葉で情景描写ができ、句自体が締まってきます。